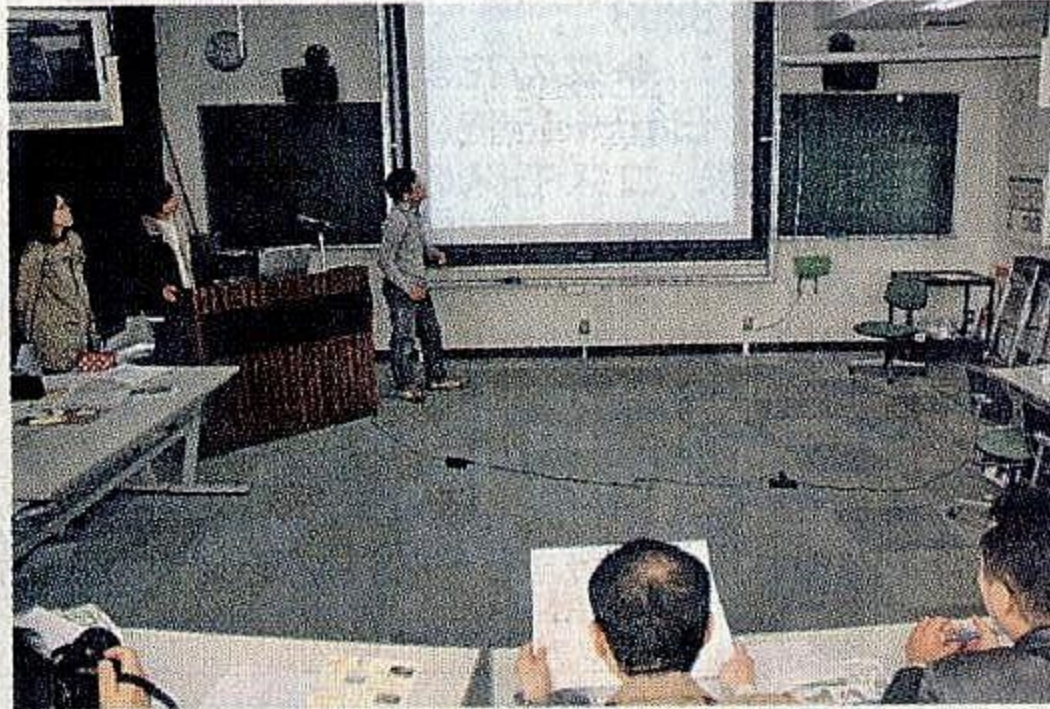


明石高専

# 「住みよい社会」共に探る 企業家らとワークショップ

バス車内の座席の改善策を提案する  
学生ら―魚住町西岡、明石高専



明石工業高等専門学校  
の学生が、誰もが過  
しやすい社会づくりを  
テーマに取り組んだ  
ワークショップ

ワークショップの発表会がこのほど、同校（魚住町西岡）で開かれた。企業家らと交えた現地調査を基に、

バス停の改革案やバス車内の改善策を発表した。同ワークショップは社会のリーダーとなる学生を養成するのが狙い。特

田紀久子さんを講師に、春期休暇を利用して四日間にわたり開いた。

学生らはまず、ノンストップバス乗車体験やバス停の視察など、現地調査で感じた問題点を指摘。観光名所をつなぐ循環バスを利用した街の活性化策や、形状記憶シートを使った対面式の座席を提案した。企業家ら六人は、創造性、実現可能性などを基準に採点。「収支も含めて提案すればより具体的になったのでは」「もっと斬新に考えてほしかった」という辛口の意見も上がった。学生は「実現性や採算性を保ちながら、新しい発想を出すのは難しかった」などと話していた。

（大月美佳）

定非営利活動法人（NPO法人）アントレプレナーシップ開発センター（京都市）事務局長の原